

後山山荘

後山山荘は様々な出来事に満ちた歴史を持つ家です。福山の風光明媚な港町、鞆の浦を見下ろす山腹に佇むこの建物は元々日本人建築家の藤井厚二（1888-1938）により設計されたものです。藤井は福山生まれで、日本と西洋の技術を融合させた環境にやさしい和風住宅の設計で有名になりました。

藤井は 1920 年代後期に、兄のための山荘として後山山荘を設計しました。当時としては極めてモダンな家であり、京都に自邸「聴竹居」を建てる中で養われた独特な特徴と同様のものが多く見られます。

不運なことに後山山荘は戦後空き家となり、2009 年には家と周りの庭はひどく荒れ果てた状態にありました。所有者は家の建て替えを予定していましたが、その代わりに同じく福山出身の建築家である前田圭介に再生を依頼しました。家の大部分が取替えを要しましたが、後山山荘のサンルームと独特のダブルルーフの状態は損なわれていませんでした。前田は近代建築と伝統建築を融合しながらも藤井による元の設計も忠実に守り、2013 年に完全復元作業を完了させました。その結果、両人の職人技が見て取れる、調和したスタイルの融合が生まれました。

周辺環境との間にインタラクティブな関係を持つ建物を作ることを目指す前田は、藤井のスタイルと多くの共通点を持ちます。例えば後山山荘のサンルームは、藤井が設計し前田が再生したユニークな自然換気システムを特徴としています。壁の足元のスライド式パネルによりフィルターされた涼風が入り、天井の同様のパネルで熱気を天井裏に逃がすことで、家をさらに涼しくします。

リビングルームの大きなガラス窓は東向きで山を見下ろし、たっぷりの日光とともに鞆の浦を見渡す眺望を取り入れています。窓ガラスは古く、その波打った文様は印象派のようですらある際立った特徴を街の景観にもたらしめます。リビングルームと窓の間には、地面の高さに石が敷かれたいくつかの中廊下のひとつがあります。屋外を屋内に持ち込む後山山荘の手法のひとつです。

後山山荘は私邸ですが、見学のため定期的に、一日に数回公開しています。